

最優秀賞

東 和香菜 (ひがし わかな) 第七小 6年生

作品名：魔女達が教えてくれたこと

図 書：病気の魔女と薬の魔女 ローズの希望の魔法

月夜のベネチアの運河に、黒服の美しい女がゴンドラに乗って仮面を買いにくる。実はこの女がペストの魔女で、病気の種をノミとクマネズミという「使い魔」に運ばせてペストを大流行させようとたくらんでいる。そんな不気味な物語の始まりは何かたいへんなことが起こりそうでぞくぞくする。

魔女学校では、小さな三人の魔女が弟子入先が決まるのをドキドキしながら待っている。私も四月に新しいクラスの発表があるとき、不安と期待で三人と同じ気持ちになる。いつも冷静で本好きのアンは図書館、気の弱いサラはワインの魔女、元気でおちょこちょいのローズはジェーン姫の召し使い魔女のところへ、ほうきで修行に行く。私の性格は、少しアンに似ているのでアンが気持ちがよくわかる。アンが出発前に「良いこと悪いことの判断は私達自身で考えてつけることが肝心」ときっぱり言ったが、そういう意志の強さも見習いたいと思った。三人はヨーロッパのペストの大流行のなか、姫を守るため協力する。一番スリルがあるのは、ローズ達がネズミに囲まれた城から姫を安全な場所に魔法のじゅうたんで連れて行く場面だ。絶対絶命のとき、ローズの勇気とアンが冷静さがとても力になる。私が週末にやっているミニバスも仲間で協力しないと勝てないので、得意なことを生かして友達と一緒にがんばることは大事だと思う。

私が気に入ったのは、アンが紙工場で少年として働く場面だ。昔は羊皮紙の高価な本しかなかったので、図書館で修行中のアンは、多くの人に本を手軽に読んでもらうために紙の作り方を覚えたいと考えた。アンが朝から晩まで紙作りを覚えたように、私も目標に向かって一生けん命になってみたいと思った。また、ワインやカビの魔女が作る料理がとてもおいしいそうで食べてみたくなった。ペストの流行により農民が収められずにひからびたブドウから、姫とローズ達が貴腐ワインを作って民衆をはげます場面に感動した。

ペストは感染力が強く中世ヨーロッパで人口の三割が死んだことを、私は初めて知った。ほかにもコレラやチフスなど病気の魔女がいろいろな方法で菌をばらまいているので、病気の感染の仕方や治りょう法がよくわかった。それに、ペストの大流行で人々はパニックになり、市長は街中を燃やしてしまったという実話にすごくおどろいた。

将来、強力な伝染病が大流行したときにあわてないように、病気や薬について勉強しておくのは大切だ。「知識や教養がないことは魂の病気なのだ。図書館は魂の病院だ。」とアンは教わった。私も、読書は頭と心に大切な栄養だと思う。もっと病気のことをくわしく知り、アンのように冷静に、ローズのようにたくましく行動できる人になりたい。